

<p>1 学校教育目標</p> <p>「伝統ある明倫館の学風および松陰先生の教育精神に学び、さらに格調高き明倫教育の創造に努め、もって国家社会の形成者となる有能な人間の育成を図る。～人としての生き方を学び、共に高まりあう子どもの育成～」を基調とし、次の4つの項目を中心に伝統をふまえた創意ある教育活動の展開に努める。</p> <p>① 保護者や地域社会との連携を深めて教育活動を充実させる。【開かれた学校づくり】</p> <p>② 主体的に学ぶ学習活動の展開に努める。【熱く燃える心、学ぶ力や創る力の育成】</p> <p>③ 心豊かな感性を育む教育の推進に努める。【温かい心、生き抜く力の高揚】</p> <p>④ 安心・安全な学校づくりを推進する。【安心・安全な学校づくり】</p>
--

<p>2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)</p> <p>○特色ある学校づくり ○朗唱や松陰読本と児童の日々の生活をつなげるための、めあての設定や振り返りの取組が定着してきている。学校だより・校長室だよりや学年だより・学級だよりの発行、Webページの更新等、積極的に情報発信をしてきたことが保護者や地域からの声に成果として表れている。</p> <p>○学力の向上 ○「書いてかかわり合う活動」を重視した計画的な校内研修を通して、「めあて」「一人学び」「とも学び」「振り返り」の流れを教員が共通理解して取り組み、授業改善による学力の向上を進めることができた。自主学習を3年生以上の全校的な取組として実施することができた。</p> <p>○心の教育の充実 ○「7mのあいさつ」の具体的な指導が保護者や地域からも理解を得られ、児童の変容として表れてきた。教員の働きかけによって、係活動や委員会活動等において主体的に企画・運営をして、みんなのために取り組む児童が増えてきた。</p> <p>○安心・安全な環境づくり ○配慮を要する児童への対応として、校内コーディネーターや生徒指導主任等を中心に、情報交換会やケース会議等を開き、担任が一人で抱え込むことのないように連携体制を構築することができた。</p> <p>○業務改善 ○会議の効率的な運営と時間短縮により会議の延長時間を短縮し、学級事務の時間確保を意図的に実施してきた。業務データの適切に管理し、業務の効率化につながった。</p>
--

<p>3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題</p> <p>「ひたむきで ぬくもりのある さわやかな明倫小学校」をめざす学校像として掲げ、次の4点を重点的に取り組む。</p> <p>① 特色ある学校づくり: 心を育て、才能を伸ばす教育として、「成徳達材」と「松陰教学」を基盤に据えて推進する。朗唱や松陰読本の活用についての授業等の実践を進め、家庭や地域に効果的に情報発信を行う。</p> <p>② 学力の向上: 動機づけや意欲づけを大切に、教師の手立てを明確にした授業改善を中核に据えての学力向上や、自主学習や読書等の家庭学習の充実に向けた取組を家庭と連携して進める。</p> <p>③ 心の教育の充実(明倫小ABCの充実と発展): (A)相手より先に明るく元気な「7mのあいさつ」を実践する。(B)美しい心と美しい環境づくりに努める。(C)めあてに向かって主体的に取り組む児童を育てる。</p> <p>④ 安心・安全な環境づくり: いじめのない楽しい学校づくり、一人ひとりの理解に努める生徒指導を推進する。全教職員が共通理解した組織的な指導と児童の主体的な取組の両面を大切に推進する。</p>

4 自己評価				5 学校関係者評価			
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
特色ある学校づくり	松陰教学の推進	○松陰教学(朗唱・松陰読本の活用等)を根幹とした教育活動を展開する。 ・朗唱、松陰読本とかかわりのある教育実践(道徳・キャリア教育)の推進	4: 松陰教学にかかわる教育実践が充実したと考える教員が80%以上 3: 松陰教学にかかわる教育実践が充実したと考える教員が60%以上 2: 松陰教学にかかわる教育実践が充実したと考える教員が40%以上 1: 松陰教学にかかわる教育実践が充実したと考える教員が40%未満	4	96%の教員が肯定的な評価をしている。前期の85%より伸びている。今後さらに、情報発信の工夫や授業等での積み重ねをしていくことが大切である。日々の朗唱と共に教職員が意識して、総合的な学習の時間・教科・道徳などの教育活動の中に充実させていくことが求められる。	・他校にない取組であり、本校の伝統として継続してほしい。 ・教職員が指導を工夫し、実践しているところがよい。	A
	保護者・地域との連携強化	○積極的な情報発信を行う。 ・学校だより、学年・学級だよりによる教育活動についての積極的な情報発信	4: お便りにより学校の教育活動が理解できたと考える保護者が80%以上 3: お便りにより学校の教育活動が理解できたと考える保護者が60%以上 2: お便りにより学校の教育活動が理解できたと考える保護者が40%以上 1: お便りにより学校の教育活動が理解できたと考える保護者が40%未満	4	94%の保護者が、肯定的な評価をしている。教員は、100%であり、積極的な情報発信ができており評価している。各種のたよりには、写真や本文を入れるなど具体的な活動の様子がわかるものが多く、喜ばれている。連絡帳や電話による個別の対応も密に行われている。一方、学校だよりについては行事の報告だけでなく内容の充実を求める声がある。	・学校だより等には、児童の成長やよかったところを掲載するよいのではないか。	A
学力の向上	学力向上プランの改善と実践	○学力向上プランの改善を図る。 ・家庭学習の充実 ・自主学習の推進	4: 家庭学習(20分・40分・60分)が充実していると考えられる保護者が80%以上 3: 家庭学習(20分・40分・60分)が充実していると考えられる保護者が60%以上 2: 家庭学習(20分・40分・60分)が充実していると考えられる保護者が40%以上 1: 家庭学習(20分・40分・60分)が充実していると考えられる保護者が40%未満	3	保護者の肯定的な評価は71%である。一方、児童は86%、教員は92%であり、保護者との評価に依然として開きが見られる。学校からは、学年だよりや参観日等の機会をとらえて自習ノートの紹介をしたり、日々の児童の取組に対して細やかなコメントを返したりするなど担任も工夫している。今後、保護者の協力の下、さらに充実した家庭学習を仕組んでいく必要がある。	・学校としては様々な工夫を取り組んでいる。一方、保護者の家庭学習に対する意識の差があることが課題である。保護者へしっかりと周知していく必要がある。 ・学校・家庭・地域が協力して児童の学力を向上させるための方策を探っていく必要がある。	A
	授業研究・授業評価をとおした授業改善	○校内研修のテーマに基づき、書いてかかわり合う活動を通して高め合う活動の充実を図る。	4: 明確なめあてを提示し、書いてかかわり合う活動を通して高め合う授業ができたと考えられる教員が80%以上 3: 明確なめあてを提示し、書いてかかわり合う活動を通して高め合う授業ができたと考えられる教員が60%以上 2: 明確なめあてを提示し、書いてかかわり合う活動を通して高め合う授業ができたと考えられる教員が40%以上 1: 明確なめあてを提示し、書いてかかわり合う活動を通して高め合う授業ができたと考えられる教員が40%未満	4	80%以上の教員と児童が肯定的な評価をしている。全国学力・学習状況調査の児童質問紙においても、全国や県平均を大きく上回っていた。校内研修等において、児童にわかりやすい具体的なめあてを提示したり、書いたことを基にかかわり合う活動を多く取り入れたという授業改善をしてきた成果である。	・授業参観するたび、めあてを提示したり、児童同士のかかわり合いのある授業が展開されたりしてほしい。 ・幼小・小連携教育についての研究会である「つながる子どもの育ち大会」では、園児にも分かりやすいめあてが提示され、園児のやる気を引き出すことができたので、この取組はすばらしいと思う。	A
心の教育の充実	明倫小(A)	○相手より先に明るく元気な「7mのあいさつ」ができる児童を育てる。 ・「相手の目を見て、いい顔で、相手より先に、続けよう」	4: 相手より先に明るく元気なあいさつができた児童が80%以上 3: 相手より先に明るく元気なあいさつができた児童が60%以上 2: 相手より先に明るく元気なあいさつができた児童が40%以上 1: 相手より先に明るく元気なあいさつができた児童が40%未満	4	83%の児童と95%の教職員が肯定的な評価をしている。地域の方からの肯定的な評価の言葉をいただくことも、学校全体で「7mのあいさつ」に4年間継続的に取り組んでいることの結果である。一方、保護者は81%とやや低い評価である。教員が見ていなくても明るく元気なあいさつができるよう地域・家庭との連携による指導が求められる。	・あいさつをする児童としない児童の個人差はある。 ・大人から声をかけていくことが大切である。 ・中学生や高校生もよくあいさつをする。地域全体の取組として定着してきているのではないかと。	A
	明倫小(B)	○心を美しく磨き、美しい環境づくりができる児童を育てる。 ・いじめを絶対にしない ・履物を揃える ・花壇の世話をする ・とりかきやを早くし、黙って時間いっぱい掃除をする	4: だまって一生懸命清掃ができた児童が80%以上 3: だまって一生懸命清掃ができた児童が60%以上 2: だまって一生懸命清掃ができた児童が40%以上 1: だまって一生懸命清掃ができた児童が40%未満	4	88%の児童が、肯定的な評価をしている。教員は85%であり、前期の77%からやや伸びた。整美委員会による「掃除プロジェクト」の取組や、各学級において児童自らにその必要性を認識させていく指導の効果と考えられる。今後さらに、学年に応じて継続的に指導していくことが求められる。	・児童にしっかりと意識付けしていく取組が必要である。	A
	明倫小(C)	○主体的に取り組む活動を設定する。 ・係活動や委員会活動 ・夢や志をもたせ、具体的な目標に向けて挑戦する心情を育てる。 ・めあての設定や振り返り	4: めあてをもつて係や委員会活動など自分から進んで取り組んだ児童が80%以上 3: めあてをもつて係や委員会活動など自分から進んで取り組んだ児童が60%以上 2: めあてをもつて係や委員会活動など自分から進んで取り組んだ児童が40%以上 1: めあてをもつて係や委員会活動など自分から進んで取り組んだ児童が40%未満	4	90%の児童が、肯定的な評価をしている。教員は96%である。一方、保護者は82%であり、やや開きが見られる。2学期は運動会や持久走大会などに向けて、個人で具体的なめあてを設定し、その達成のために取り組んだ児童が多かった。今後も児童が主体的に取り組める場づくりを、意識して設定していくことが必要である。	・行事のたびに目標が設定されており、児童一人ひとりのよさを引き出すものになっている。 ・児童に負担のないペースで取り組まれているのでよい。	A
安心・安全な環境づくり	安心な環境づくり	○温かい人間関係づくりに努める。 ・学校いじめ防止基本方針の具体的な運営 ・教育相談の充実 ・配慮を要する児童への適切かつ組織的なかわり	4: 友だち関係がうまくいき、学校に行くことが楽しかった児童が80%以上 3: 友だち関係がうまくいき、学校に行くことが楽しかった児童が60%以上 2: 友だち関係がうまくいき、学校に行くことが楽しかった児童が40%以上 1: 友だち関係がうまくいき、学校に行くことが楽しかった児童が40%未満	4	91%の児童が、肯定的な評価をしている。教員の配慮を要する児童への適切な組織的なかわりについての肯定的な評価が97%であり、前期の94%からやや伸びた。早期発見・早期解決に向けて、学校全体で組織的に取り組もうと努力した効果と思われる。しかし、否定的な評価をしている9%の児童への配慮を要せず、今後も外部機関との連携と共に、担任や教育相談担当、生徒指導主任を中心に組織的な対応を心がけていきたい。	・組織的に動いているところがよい。 ・いじめはあるものと認識し、その都度対応することが大切である。 ・トラブルがあった場合、双方の言い分をしっかりと聞いて対応してほしい。	A
	安全な環境づくり	○適確な安全指導を行う。 ・無言の教室移動 ・正しい廊下歩行 ・室内での落ち着いた学校生活 ・安全な登下校	4: 正しい廊下歩行や室内での落ち着いた学校生活ができた児童が80%以上 3: 正しい廊下歩行や室内での落ち着いた学校生活ができた児童が60%以上 2: 正しい廊下歩行や室内での落ち着いた学校生活ができた児童が40%以上 1: 正しい廊下歩行や室内での落ち着いた学校生活ができた児童が40%未満	4	82%の児童が、肯定的な評価をしている。教員は肯定的な評価が81%であり、児童は前期評価より5%、教員は2%減少である。今後、学校全体で落ち着いた学校生活が送れるよう、指導を続けていくことが必要である。	・校外、校内の安全に配慮した取組が行われている。	A
業務改善	学校の組織等	○会議の効率的な運営を図る。 ○会議の精選を図る。	4: 検討内容の明確化により効率的な運営が図れたと考える教員が80%以上 3: 検討内容の明確化により効率的な運営が図れたと考える教員が60%以上 2: 検討内容の明確化により効率的な運営が図れたと考える教員が40%以上 1: 検討内容の明確化により効率的な運営が図れたと考える教員が40%未満	4	86%の教職員が、肯定的な評価をしており前期より5%伸びた。2学期はたくさんの行事があり会議の数も多かったが、検討内容の精選により効率的な運営をすることができた。	・学校は日中に会議を設定するのは難しい。限られた時間で業務をこなさなければならぬ困難な状況にある。 ・次年度に向けての改善案を教職員でしっかりと協議してほしい。	B
	日常的な業務	○データの管理・活用による業務の効率化を図る。	4: 適切なデータ管理と活用ができたと考えられる教員が80%以上 3: 適切なデータ管理と活用ができたと考えられる教員が60%以上 2: 適切なデータ管理と活用ができたと考えられる教員が40%以上 1: 適切なデータ管理と活用ができたと考えられる教員が40%未満	4	93%の教職員が、肯定的な評価をしているが、前期からは8%減少である。データの共有化がさらに進み、より効率的になっている一方、個人情報等の重要な情報管理に負担感を抱く教員がいると考えられる。今後も、データ管理やメール処理等、全職員で徹底していきたい。		
	勤務状況	○時間外勤務時間を減少させ、勤務状況の改善を図る。	4: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が80%以上 3: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が60%以上 2: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が40%以上 1: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が40%未満	2	前期評価より18%下がり、肯定的な評価をした教員は42%、過半数の58%は否定的な評価である。会議や提出物、行事等を見直し時間確保に努め、教材研究や子どものかかわりの時間を増やす環境づくりをする必要がある。一方で、教師の負担感を軽減するための工夫を行ってほしい。		
	勤務状況の改善						

<p>6 学校評価総括(取組の成果と課題)</p> <p>○特色ある学校づくり ・松陰教学については、日々の朗唱と共に教職員が意識してこれからの教育活動の中で充実させていくことや、情報発信の工夫をすることが大切である。</p> <p>○学力の向上 ・校内研修等は充実しているが、家庭学習(低学年-20分、中学年-40分、高学年-60分)については、教師のきめ細かく丁寧な個別指導と家庭との連携をしていくことが必要である。</p> <p>○心の教育の充実 ・「7mのあいさつ」は意識化され、実践されている。さらに、CSスローガンを生かしながら地域や家庭との連携による指導を推進していきたい。また、子どもたちが主体的に考え、めあて達成に向かって行動するよう導きたい。</p> <p>○安心・安全な環境づくり ・指導が難しい子どもや家庭が増えているが、今後も外部機関との連携と共に、担任や教育相談担当、生徒指導主任を中心に組織的な対応を素早く行う必要がある。</p> <p>○業務改善 ・電子データの共有化は進み、より効果的な活用がなされている。一方、意見を出し合いながら、行事や会議・提出物等を見直し、学級事務の時間を増やす必要がある。</p>

<p>7 次年度への改善策</p> <p>「ひたむきで ぬくもりのある さわやかな明倫小学校」をめざすためには、保護者や地域との関係者と連携し、本年度の取組を検証した結果をもとに教職員が一体となって目標を設定し、計画的・継続的な働きかけを組織的に進めていくことが必要である。</p> <p>○「特色ある学校づくり」については、全教職員が松陰教学の意義を知り、日々の朗唱を中心に教育活動の中に充実させていく。子どもたちの活動の写真や子どもの作文を入れるなど情報発信の工夫をしていく。</p> <p>○「学力の向上」においては、研修部を中心に授業研究を通して「書いてかかわり合う活動」のさらなる探究を試みるとともに、児童の実態をつかみ、保護者と連携しながら家庭学習の充実をめざす。</p> <p>○「心の教育」や「安心安全な環境づくり」においては、今後も全教職員による組織的な指導と児童の主体的な取組の両面を大切にしながら、心の教育を推進するとともに、問題の早期発見・早期解決に取り組む。</p> <p>○「業務改善」においては、行事やその行い方の見直しをすることによって、学級事務等の時間を増やす。</p> <p>学校評価は、学校・保護者・地域、それぞれの捉えを総合的に把握・評価し、改善につなげていくことが重要である。次年度は、コミュニティ・スクールの機能を生かし、各プロジェクト部会の取組を充実させることで、学校・家庭・地域が目標達成に向けて一丸となって同じベクトルで進んでいくようさらなる組織力の向上をめざしたい。</p>
--